

列状間伐、事業体連携による間伐実施

長野県 中野市農政課 ○ 山岸 功

要 旨

中野市は長野県北部に位置し、森林面積2,601haのうちスギが1,054haを占め、その多くが間伐材生産の時期を迎えている。

一方、千曲川下流域の地域材活用拠点施設として、平成10年度に林業構造改善事業により流域のほぼ中央に位置する長野市穂保地籍に、総事業費18億円、総面積約3haの北信木材流通加工センター（木材生産センター、木材流通センター、木材加工センターで構成）が整備されたところである。

こうした状況の中、中野市ではスギ間伐材の北信木材流通加工センターへの安定供給に取り組んでいる。

その方法は次のとおりである。

- 1 高性能林業機械を利用した3残1伐による列状間伐によるコストの低減
- 2 間伐実施承諾書による間伐施業地の集団化
- 3 素材生産費を間伐材販売によってカバーし、森林所有者に経費負担をかけない

平成9年度に中野市間山地区において、これらの方法による収入間伐のモデル事例を実施し、以後、地域の森林所有者からの間伐施業実施承諾書を取りまとめ、北信木材流通加工センターとの連携により集団的な間伐を推進している。

はじめに

中野市の森林面積は2,601haで総面積の約34%を占め、人工林面積は1,515haで人工林率は58%となっている。このうちスギが71%を占めており、間伐などの森林施業を適期に行う必要がある。特に成熟しつつある31年生以上のスギは、スギ全体の約72%に達し間伐材としての活用が大きな課題となっている。

一方、地域で生産された木材を地域で活用していくことをめざして、長野県長野地方事務所、北信地方事務所両管内の25市町村（中野市、長野市等）と関係団体、事業者の連携により、木材生産から流通加工にいたる一貫した地域材供給体制基地として、北信木材流通加工センターの整備がなされ、間伐材等の安定供給確保が課題となってきた。

北信木材流通加工センターの構成と各役割

木材生産センター (北信木材生産センター協同組合)	森林組合などとの連携のもとに間伐事業地を確保し、高性能林業機械により生産コストを低減してもうかる林業を目指すとともに、木材流通センターに安定的に材を供給する。
木材流通センター (県森連北信木材センタ)	地域で生産した木材を出来るだけ高値で販売するため、用途別に選別した地域の木材を市売りするとともに、負荷価値を高めて加工販売する木材加工センターに安定的に供給する。
木材加工センター (北信地域材加工事業協同組合)	木材流通センターから地域の木材を購入し、柱材などの木材製品の生産や住宅プレカットを行い地域の木材の需要拡大を図る。

中野市民有林の約9割は個人有林もしくは共有林となっているので、間伐事業地の大半はここで確保しなければならない。

現実として森林所有者のほとんどが、現状の山から収入を得ることが出来るとは考えておらず、むしろ経費の出費を懸念して間伐等に消極的にならざるを得ない状況であった。

そこで間伐事業地の確保に向けて、先ず森林所有者から、自己出費が無く、収入を得られる間伐方法（収入間伐）の理解を得ることが必要となった。

具体的な取組み

収入間伐を実施するため、

- 1 高性能林業機械導入（北信木材生産センター活用）
- 2 高性能林業機械搬入条件（路網等）
- 3 列状間伐（3残1伐方式）
- 4 柱材（長さ3m、末口径14cm）採材が可能な森林。平均胸高直径18cm以上が目安。
- 5 事業地の面積が少なくとも2ha以上のまとまっていること。

を必須条件として収入間伐モデル事例地を設定した。概要は次のとおり。

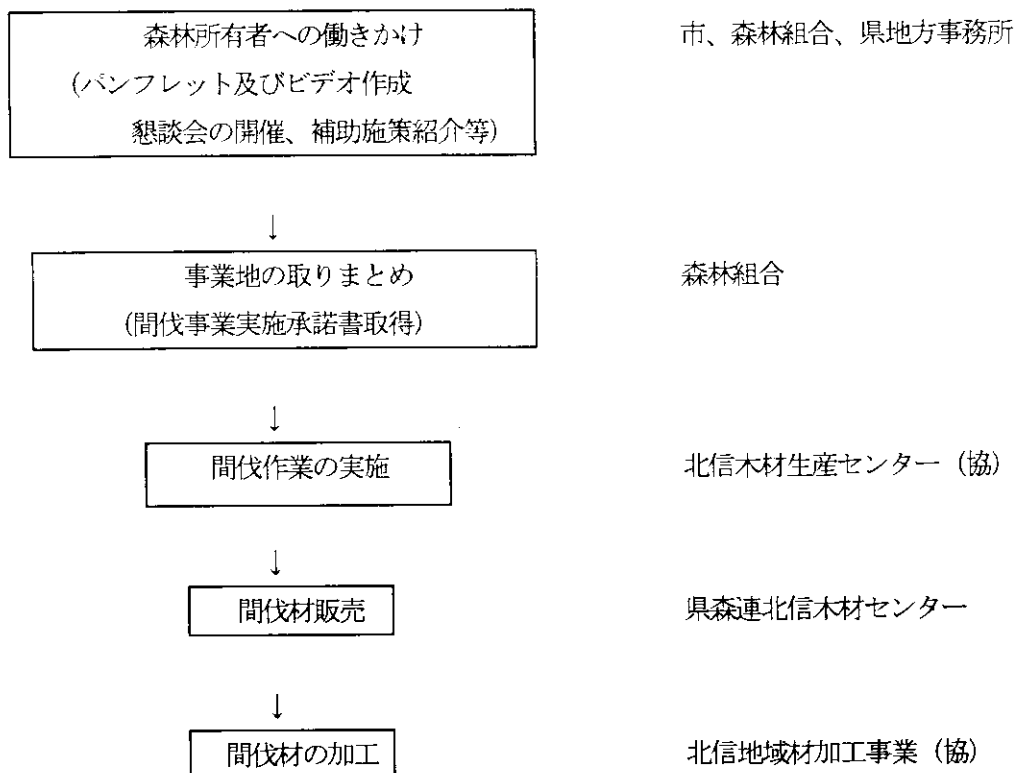
実施年度	平成9年度
実施場所	中野市間山地区 個人有林 スギ 40年生
森林所有者	中野市間山地区在住個人 2名
間伐方法	3残1伐の列状間伐
実施面積	4.03ha
作業体系	チェーンソー → タワーヤーダ → プロセッサ → トラック
事業実施	中野市森林組合
間伐・搬出実行	北信木材生産センター
販売材積	303.399m ³
総収入額	5,583,132円（18,401円/m ³ ）
総経費	4,782,060円（15,761円/m ³ ）
販売収支	801,072円（2,640円/m ³ ）

地区懇談会等で、この具体的事例を活用して森林所有者に間伐推進の理解を求めると同時に間伐実施承諾書の取得につとめた結果、平成10年度実施分で約50haの団地化が図られた。

また、市の理事者、議会議員等に対しても現地研修を行い、間伐の意義について理解を求めた。

収入間伐の実施にあたって、市、森林組合、県地方事務所（林業改良指導員）、北信木材流通加工センターの役割は

次のとおりとなっている。



間伐モデル事例地を活用しながら、上記の流れで間伐実施に取り組んだ。

結 果

平成9年度からの取り組みの結果、森林所有者が自発的に間伐実施を申し込んでくるなど収入間伐への理解が広まり、別紙資料1「収入間伐事業の結果」のとおり10年度末で約65ha実施し、2,600m³の間伐材を供給できた。平成11年度実績（集計中）はこれを上回る見込みである。

収支については、現在のところプラスである。平成12年度の実施予定は約100haであり引き続き実施していく。

今後の対応

- ・ これまでの収入間伐実施の継続
- ・ 地域材需要拡大の取り組み
- ・ 必要に応じて基盤整備（林内路網の充実）
- ・ 広域合併による森林組合の体質強化
- ・ 獣害調査結果後、（森林整備後の獣害減少に）農園所有者のボランティア参加の意識が高まる

おわりに

本市において間伐がこれだけ進んだ大きな要因は、

- ①地元で具体的な事例として示した。
- ②間伐結果をパンフレットやビデオで広くPRした。
- ③精算結果をわかりやすく示した。
- ④地区懇談会の後も森林組合が所有者個別にはたらきかけた。

ことであると考えられる。

また、集団的な間伐が始まるとその現場自体が事例地となって、地域の中で話題となり関心が高まってくる傾向も見られた。間伐を実施した所有者からは「やってよかった」という感想が多い。

今後は、地域材の消費拡大を大きな課題として取り組んでいきたい。

収入間伐事業の実績

資料 1

(平成9年～平成10年)

年度	市町村 所有者	樹種 面積(ha)	搬出材積(m ³) ha当り材積(m ³)	総収入額(円) m ³ 当り収入額(円)	総支出額(円) m ³ 当り支出額(円)	総収益額(円) m ³ 当り収益額(円)	生産性 (m ³ /人)	作業機械
9	中野市間山 私有林2名	スギ 4.03	303.399 75.3	5,583,132 18,402	4,782,060 15,762	801,072 2,640	2.33	プロセッサ タワーヤーダ
	中野市桜沢 私有林4名	スギ 1.68	88.897 52.9	1,316,831 14,813	1,131,253 12,725	185,578 2,088	2.17	フォワーダ
	中野市越 四区共有林	カラマツ・アカマツ 7.32	126.616 17.3	2,430,963 19,199	2,121,338 16,754	309,625 2,445	2.75	プロセッサ スキッド
	中野市赤岩 赤岩区有林	スギ 2.00	69.730 34.9	1,126,733 16,159	1,039,928 14,914	86,805 1,245	1.79	プロセッサ・フォワーダ タワーヤーダ
小計		15.03	588.642 39.2	10,457,659 17,766	9,074,579 15,416	1,383,080 2,350	2.26	
10	中野市間山 私有林11名	スギ 23.12	882.860 38.2	13,999,424 15,857	13,032,123 14,761	967,301 1,096	2.22	プロセッサ・フォワーダ タワーヤーダ
	中野市間山 私有林16名	スギ・カラマツ 22.64	1,009.671 44.6	16,693,689 16,534	16,465,567 16,308	228,122 226	3.27	プロセッサ・フォワーダ タワーヤーダ
	中野市桜沢 私有林2名	スギ 3.68	115.638 31.4	2,005,656 17,344	1,788,904 15,470	216,752 1,874	2.38	プロセッサ タワーヤーダ
小計		49.44	2,008.169 40.6	32,698,769 16,283	31,286,594 15,580	1,412,175 703	2.62	
合計		64.47	2,596.811 40.3	43,156,428 16,619	40,361,173 15,543	2,795,255 1,076	2.44	
11	中野市桜沢 私有林93名	80.00	集計中					